

西方寺さいほうじ弥陀次郎みだの旧跡きゅうせきは五箇庄ごかのしやうにあり。本尊阿弥陀あみだ仏ぶつは金銅の立像なり。其来由を原に、当国淀よとの東一口いもあらひといふ所に、悪次郎あくじといふ漁人あり、産業の殺生をつねにして、邪見放逸のものなり。ある時頭陀の僧壹人門戸に立、悪次郎焼鉄をかの僧の額に当て追放す、僧少も怒る色なうして帰りける。次郎怪で跡を慕ふに、西山粟生野にしやまあ野の光明寺くわうみやうじに入て見えず。堂内の釈迦の像を拜するに、額に焼鉄の火印あり。次郎忽懺悔の心を発して、仏道に入。「是より御鉢みはちの釈迦しゃかといふ、今光明寺くわうみやうじにあり」又ある夜霊夢を蒙りて、淀川よとがはに網を入るに紫金の仏像を得たり。「当寺の本尊是なり」其後当寺の常照阿闍梨じやうせうあざりと共に仏道修行し、遂に二人とも同日同刻に往生し侍りぬ。「世の人に悪次郎あくを名て弥陀次郎みだといふ」